



## 大学連携推進協議会とは

### 《 事業の目的 》

大学連携推進協議会は、南あわじ市内の大学等高等教育機関と総合的かつ包括的に連携を図り、6次産業化の推進と地域連携を促進するため設置されています。吉備国際大学農学部を中心に地域内外の関係機関と連携し地域課題の具体的な解決を図っており、取り組みの一環として、吉備国際大学への研究委託を行っています。

### 《 構成メンバー 》

地元地区自治会、商工会、農業委員会、認定農業者連絡協議会、農業協同組合、漁業団体、民間企業、吉備国際大学、南あわじ市役所など

## 地域の課題解決のための研究会 (4つの研究会)

### 1 地域植物資源研究会

将来的に南あわじ市における栽培や生産に貢献できるような農作物の探索を目的として、露地(フィールド圃場)や植物工場で様々な作物栽培を実施し、労働不足や異常気象による生産性の減少といった問題の解決の糸口を見出します。

### 2 地域ブランド食品研究会

野生獣による農作物への被害が深刻化する中、イノシシが好む匂いに着目して、餌となる糠がもつ香気成分を探索し、イノシシを箱罠に誘引する効果的な捕獲について評価を行います。イノシシの習性を明らかにすることは効率的な捕獲だけでなく、集落に呼び寄せない、近づかせない効果が期待できます。

### 3 地域資源保全研究会

管理放棄される里山が増加すると生物の多様性にも影響をもたらすため、南あわじ市に分布する草本類の判別・同定能力を高めて分布特性を明らかにすることを目的とし、里山のモニタリング調査を行い植物の動向を把握し、生物多様性の保全につながる管理方法について検討します。

### 4 地域海洋資源研究会

従来の漁業に加えて新たな収入源の確保のため、南あわじ市沿岸の海藻類の分布調査を実施し、食味検査を行い新たな食用海藻の活用を検討します。またワカメについて藻体より機能性成分フコキサンチンを多く含む配偶体の陸上における培養方法を検討します。

## 令和4年度研究発表 地域海洋資源研究会「灰ワカメについて」

地域創成農学科 金沢 功 講師

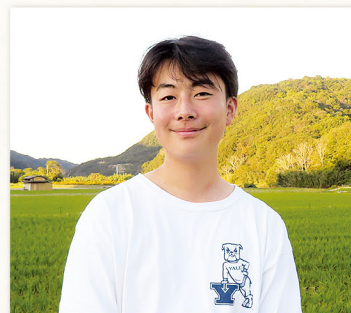
令和4年度の地域海洋資源研究会では、南あわじ市で伝統的に製造されている灰干しワカメに着目し、その機能性を評価して新たな付加価値を模索しました。灰干しワカメは新鮮なワカメに灰をまぶした後に天日干しするため、通常の乾燥ワカメに比べて鮮やかな緑色が維持される特徴があります。色素成分であるフコキサンチンは抗糖尿病作用、コレステロール代謝、抗肥満作用、癌細胞の増殖抑制作用、抗炎症作用などの機能があるため、産地別(淡路島産、徳島県産、青森県産)の灰干しワカメと乾燥ワカメ、塩蔵ワカメそれぞれのフコキサンチン含有量を比較しました。結果は、淡路島産の灰干しワカメに含まれるフコキサンチン量は最も少なく、塩蔵ワカメが最も多いものでした。灰干しワカメは、水分含有率を低下させる乾燥処理でワカメ中のフコキサンチン含有量が減少し、クロロフィル色素の緑色が鮮明に見えることが分かりました。



## 学生インタビュー 地域創成農学科 3年生 藤田 倫太郎さん



今回は、南あわじ市伊加利地区のシェアハウスにお住いの地域創成農学科3年生の藤田倫太郎さんにインタビューしました。伊加利地区とは、南あわじ市の21地区の自治会の中で最も人口が少なく、コンビニや信号はありませんが、美しい星空が自慢の山あいの地域です。



そんな地域で「地域交流」と「草刈り」が入居条件のシェアハウスに住む藤田さんが、地域とどのような関わりを持ちながら学生生活を過ごしているのかお聞きしました。

### Q 吉備国際大学農学部に進学した理由は？

**藤田** 僕の実家は広島県呉市の瀬戸内海に浮かぶ大崎下島で、本州から橋を4つ渡ったところにあります。すぐそこはもう愛媛県です。僕は中学生の頃から地方創生に興味を持っていて、高校は地域振興に力を注ぐ隣の島にある高校へ船で通っていました。島全体で地域を元気にしようという教育方針でした。僕は地域を元気にするのは農業だと思っていたので、大学は農学部を希望していました。吉備国際大学には地域連携・地域貢献活動に取り組む地域創成農学科があるということを知り、オープンキャンパスでも雰囲気の良さを感じたため受験しました。実は受験後、合格発表がまだにも関わらず、淡路島に行きイベントに参加していました。「合格したら、淡路島に住みます！」と自分を売り込んでいました。その時にご縁のあった人とは今も繋がっていて、イベントのお手伝いなどをしています。

### Q シェアハウスや伊加利地区での暮らしは？

**藤田** 1年生の時は、一般的な一人暮らしのマンションに住んでいて、特に近所の方と交流があるわけでもありませんでした。2年生になる頃に大学の掲示板で伊加利地区のシェアハウスのことを知り、引越しを決めました。シェアハウスには学生は僕ひとり、管理人の方と少し前までは男性の社会人の方がいらっしゃいました。今度また新しく社会人の方が入ってくる予定です。台所とお風呂とトイレが共用ですが、生活のペースが違うので重なることはほとんどなく不便はありません。シェアハウスに住むようになってからは、学生以外の方との出会いが増え、

地域の方のあたたかさを感じています。また、伊加利地区のお米は特に美味しく、そのお米が顔見知りの近所の方が作っていることに感動しています。

### Q 入居の条件に「地域交流」と「草刈り」があると聞きましたが

**藤田** この2つの条件は僕にとっては全く問題ありませんでした。シェアハウスに地域の回覧版が来るので、地域の老人会の清掃の日にお手伝いに行ったりして、近所の人たちとは仲良くしています。

### Q 近所の人とはどんなお付き合いをされていますか？

**藤田** シェアハウスの前の田んぼを借りて野菜を作っていたのですが、最初スコップで耕していると、近所の農家の方が見兼ねてトラクターで耕してくれました。野菜の作り方もその方から教わりました。近所の人に農業のことや地域のことを教わるのはとても勉強になります。

他には、ナルトオレンジの木を所有している人がいて、ナルトオレンジの使い道に困っていたので、南あわじ市内のスイーツのお店に提供し、シロップにして使っていただきました。また、自分でもナルトオレンジピールとマーマレードを作りました。僕の生まれた大崎下島では柑橘類の栽培が盛んで、中学生の頃に地元の特産品加工団体のジャムづくりの名人から作り方を教わった経験がありました。名人は本場イギリスのマーマレードの大会でブロンズ賞を受賞したほどの人です。マーマレードは自分が思っている以上に美味しく出来上がったので、その時のシェアハウスの同居人がパッケージをデザイン

してくれました。自分たちが楽しむためだけに作りましたが、商品化してはどうかとってくれる人もいて、地域を盛り上げるためになるならチャレンジしてみてもよいかと考えているところです。ナルトオレンジを提供してくれた近所の方も僕のことをよく気にかけてくれていて、ナルトオレンジを使って収益が上がる事業ができるなら協力すると言ってくれます。

**Q 将来の夢、目標などを聞かせてください**

**藤田** 僕は、困っている人を助けるのが好きなんです。手を差し伸べたいというか、誰かの役に立ちたいと思っています。中学生の頃から興味があった地方創生は変わらないモチベーションで、将来は、農業や農産物に関係する仕事に就きたいと考えていますが、何より誰かを、何かを元気にすることに繋がる仕事を見つけたいです。

**BBQ**



藤田さんは伊加利地区の方と学生の交流を深めるために、バーベキューを企画し、「伊加利の大学生からのご案内」とチラシを作成して地域の方々と交流会にお誘いしました。当日は伊加利地区の方や農学部の学生のほか、大学の先生方や卒業生も集まり大いに賑わいました。藤田さんは、伊加利地区産のお米も炊いて参加者をもてなしました。



**地域  
連携**

**植物クリニックセンター**



植物クリニックセンターについてお話していただいた 相野農学部長

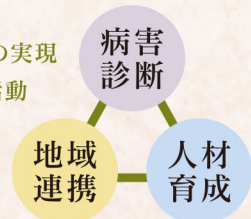
南あわじ志知キャンパス内にある「植物クリニックセンター」を紹介します。植物クリニックセンターは、農作物等の病害診断を行い、診断した結果をお知らせすると共に対策をアドバイスします。淡路地域の野菜や果樹などの生産安定に貢献することを目的とし活動しています。

農作物の病害は、収穫量に直接関係するため生産者にとって深刻な問題で、早期解決が求められます。病害の診断を行うセンター員の相野農学部長は、病害の種類にもよりますが、診断依頼された日から2、3日以内には結果を報告するよう努められています。診断結果には、推奨する農業名やその使用方法、使用時期まで丁寧に記載されたリストが添えられます。

また、相談は地域の生産者からだけでなく、淡路島外からも広く寄せられることもあり、植物クリニックセンターの重要性が認識されつつあります。また、人材育成にも力を注いでいます。学生が病害虫診断をできる力を身につけて地域社会に貢献できる人材となるよう、病害虫診断コースを設けることを考えられています。将来、学生から病害診断の専門家が輩出されることが期待されます。

学部長は、今後の植物クリニックセンターについて、淡路農業技術センター、南淡路農業改良普及センター及び農業協同組合と情報共有を行いながら地域に役立つものにしていきたいと、地域貢献の思いを語ってくれました。

- ①迅速で正確な病害診断の実現
- ②地域と連携した密接な活動
- ③次世代を担う人材の育成



# 地域連携・人材育成

## くにうみ祭

南あわじ志知キャンパスで大学祭「くにうみ祭」が令和5年11月18日に開催されました。農学部ならではの甘えびの唐揚げ、タコのコロッケ、ジビエカレー、大学圍場でとれた玉ねぎを使用した肉まんなどの模擬店が並びました。

また市内で活動する小学生和太鼓チーム「志童」の迫力ある和太鼓演奏も披露され、会場は割れんばかりの拍手に包まれました。



## 市長・市役所職員の講義

令和5年度新生を対象に、南あわじ市長、市役所職員による講義を行いました。市長は自身の体験を交えながら、自ら課題を見つけ解決する方法を考える力を養うことの大切さを、市職員は今後南あわじ市をフィールドに学ぶ学生たちに役立つ農業・水産業分野について説明しました。



## 志知高等学校石碑

南あわじ志知キャンパスは、長い坂道を登り切った山の頂上にあり、平成21年に閉校した兵庫県立志知高等学校の跡地を利用しています。正門の少し手前に、当時の志知高等学校を偲ぶ石碑があります。かつて、志知高等学校はボランティア活動が盛んで、その活動が評価され野球部がないにも関わらず、夏の甲子園の開会式で生徒会長が選手先導を行ったこともあります。また、だんじり唄※を全国各地で披露し、その名を広めました。

かつての学び舎は、今も変わらず学生たちの活躍の場として受け継がれ、学生一人ひとりのもつ能力を最大限に生かす教育が行われています。

※だんじり唄とは、太鼓と拍子木でリズムをとりながら、グループで浄瑠璃や歌謡浪曲の演目を、独特の節回しで情感豊かに唄い上げるものです。

